

えんたいごう 掩体壕を平和記念として 保存する考えは

都と共同し 保存・活用していくことが大切

三宮 克己議員 掩体壕は、太平洋戦争中に、軍用機を敵の爆撃等から守るために造られたもので、当時の状態を今に残す歴史的遺産である。市の学校教育プラン21には、「文化財は生きた教材として活用する」とある。

平和宣言都市として、先の大戦を忘れないためにも、市内白糸台に残る戦跡掩体壕を保存する考えはあるか。



▲白糸台に残る掩体壕

また、平成16年度の市制50周年事業の一つとして、掩体壕の保存のため、1億円特別枠の活用等を行うことについて、市の考えを聞きたい。
生涯学習部長 掩体壕の保存は、単に市民の近代遺産というだけでなく、広く都民の共感を得て、都と共同して保存し、活用していくことが大切と考える。また、1億円特別予算枠の確保は、考え方を整理の上、検討したい。
他 多胎児の育児支援について 住民基本台帳ネットワークシステムについて

重度障害者などの選挙権保障 市の対応は 制度の改善に向け 国などへ要望を継続

山口 雅議員 障害者の完全社会参加にとって重要な意味を持つ選挙権の保障については、いまだ多くの課題がある。郵便投票は、一部の障害者には認められているものの、在宅で自筆投票ができず、外出も事実上不可能な、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の重度障害者などにとっては、選挙権を行使する機会すら奪われている。

このような市民の選挙権を保障するため、市としてできることは何か聞きたい。
選挙管理委員会事務局長 重度障害者などに対する選挙権の改善は、これまで様々な観点から検討がされているが、国による法改正の必要等、結果的に有効な解決策を見いだせない状況である。市ではこれまで、制度の改善について、東京都選挙事務運営協議会を通じて、国などに対し働き掛けを行ってきた。今後も、継続して要望していきたい。
他 分譲マンション支援について

健康増進事業 医療費との関係を調べては

どの事業が 可能性があるのか検討したい

藤井 由紀子議員 今回、市民の日常的な提案から、生ごみの堆肥化、学校のトイレ、高齢者の医療費・介護保険料の負担感について、独自の調査を実施した。

健康増進に関して、医療センターのトレーニングルームは、生活習慣病の予防運動と各種相談とを並行して実施してきたが、ここで、他施設と統合する考えが出された。

30人学級 実施する考えは

少人数指導を 効果的に取り入れていく

目黒 重夫議員 30人学級については、様々な意見があり、あるアンケート調査では「集中と落ち着きが増し、先生の話をしつかり聞いている」といった高い評価を受け、全国的な広がりを見せている。

本市でも12月議会に陳情が提出され、少人数学級の要望は高まっている。
そこで、30人学級に対する市の考えと学校教育プラン21の策定の中で、どのような検討がされたのか聞きたい。
市長 学校生活を通じ、適切な体験をすることが大切であ



▲桜の木の下で(府中第二小学校 校庭)

他 その後の学校のトイレ改善について―生活者ネットワークの調査活動結果から―

生ごみの堆肥化 より具体的な支援を

市民の情報を収集し リサイクル誌等でPRしていく

佐々田 信子議員 生ごみの処理費は、年間50億円で、そのうち可燃ボツクスの5割以上を占めている生ごみは、6億4千万円も掛かっている。



▲生ごみも大事な資源です

ごみ減量につながる生ごみの堆肥化は、資源の再利用や経費削減の上でも効果がある。私たちが実施したアンケートからは、生ごみの堆肥化に取り組む人の多くが、情報不足のため、途中でやめていることがわかった。
そこで、生ごみの堆肥化支援の具体策としてモニター体験、アドバイザー制度、情報・意見交換、講習会などを実施する考えがあるか聞きたい。
環境安全部長 生ごみの堆肥化については、グループや個人で様々な工夫をし、取り組

地域経済の活性化 住宅リフォーム助成制度の導入は

現在の制度を活用して 対応していきたい

服部 ひとみ議員 市民が住宅改修を行う場合、住宅建築資金助成制度等、現在ある制度で対応するとしているが、利用件数も少なく、有効に活用されていない。

深刻な不況の中、地域経済活性化施策として、市民が市内建設業者に改修工事を発注した場合に、工事費の一部を助成する、住宅リフォーム助成制度を導入する考えがあるか聞きたい。
市長 市では既に、住宅建築

資金助成制度等で住宅改修を対象とした助成を実施している。こうした需要に的確に対応していくことにより、市内の施工業者にも効果が及ぶと考える。
現在実施している住宅改修に対する助成を行う際には、制度の利用者に対し、市内業者を利用するよう積極的にPRしていきたい。
他 支援費制度の改善を求めて―実施直前に当たって―

学校トイレの改善 検討委員会を設置する考えは

清潔で使いやすいトイレづくりに向け 内部の検討会を設置する

奈良崎 久和議員 学校のトイレは、3Kあるいは5Kと言われ、これまで一定の改善が図られてきた。
平成14年度に策定された「府中市学校教育プラン21」でも、明るく快適な生活環境に配慮した施設整備を進めていくとしているが、トイレの整備は、一つの事業として明確に位置づけ、新たな手法で取り組んでいくことが重要であると考える。

そこで、学校のトイレの改善に向け、検討委員会等を設置する考えがあるか聞きたい。
学校教育部長 市ではこれまで、学校のトイレについて、照明の増設や用便器の取替え等の改善を行ってきた。
今後は、より一層清潔で使いやすいトイレづくりを進めるため、児童・生徒や教職員の意見を聞き、学校のトイレの在り方について、内部での検討会を立ち上げていきたい。
他 分倍河原駅など鉄道利用者への案内サービスの充実を

んでいる。これらの情報を積極的に収集し、リサイクル誌「リニューズ」などでお知らせしていきたい。
他 市民にわかりやすい公平公正な補助金制度を求めて